

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社百十四銀行（証券コード:8386）

【据置】

長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 高松市に本店を置く資金量 4.8 兆円の地方銀行。香川県では預貸ともに 3 割台半ばのシェアを有するほか、11 都府県にまたがる広域な店舗ネットワークを構築している。長期発行体格付は強固な事業基盤、比較的良好な資産の質などを反映している。貸出金利息の増加を主因にコア業務純益が増加している。収益力の向上を持続するとともに、資本充実度を高めていけるかが格付上の注目点である。
- (2) 収益力は A レンジに見合う。コア業務純益（投信解約損益を除く、以下同じ）ベースの ROA は A レンジの地域銀行の中で中位にある。26/3 期第 3 四半期累計は、国内の金利上昇で資金調達費用は増加しているが、貸出金利息の伸びが上回りコア業務純益は前年同期比 2 割強の増益となった。人件費の増加や DX 投資などが見込まれるが、貸出金残高の増加が続いていることに加え、市場金利の上昇を背景に貸出金利回りや有価証券利回りの改善が進むとみられることから、コア業務純益は堅調に推移すると JCR はみている。
- (3) 貸出資産の健全性は維持されている。金融再生法開示債権比率は 1% 台前半と良好である。その他要注意先債権も抑制されており、分類債権の総与信に対する比率は問題ない水準にある。貸出ポートフォリオの 1 割強を占める外航海運業向け融資は、手元資金に厚みがあり市況変化に対する耐久力のある先が多く、ほぼ全額が正常先となっている。与信費用は低位に抑えられており、与信費用比率は 10bp 程度で推移している。その他要注意先以下で未保全額の大きい先は減少しており、与信費用が大幅に増加する懸念は小さいと JCR はみている。
- (4) 市場部門が抱えるリスクは過度な水準ではない。国内の金利上昇を受け国債の残高を還元しているが、デュレーションを短期化しており、資本対比でみた円貨の金利リスク量は特段問題ない水準に保たれている。外貨の金利リスク量は限定的である。その他有価証券の評価益は比較的大きい。当面、有価証券残高やポートフォリオの大幅な変更は計画されていないことから、市場部門のリスク量は現状程度の水準で推移するとみている。
- (5) 資本充実度は A レンジの中ではやや低位にある。その他の包括利益累計額などを控除した調整後の連結コア資本比率は、26/3 期上半期末 8% 台半ば。今後は中小企業向けや海運業向けを中心とした貸出金の増強に加え、バーゼルⅢ最終化の完全実施に伴う影響から、リスクアセットの増加が見込まれる。一方、利益水準の向上により内部留保の蓄積を見通しやすくなっており、資本充実度を高めていけるか注目していく。

（担当）坂井 英和・青木 啓

■格付対象

発行体：株式会社百十四銀行

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2026年3月2日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：坂井 英和
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2024年10月1日)、「銀行等」(2021年10月1日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社百十四銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル